

断熱仕様が特定できない場合の断熱性能の評価

断熱材種類まで判別できる場合は表①、断熱材の分類しか判別できない場合は表②を適用し、
断熱材の厚さが特定できる場合は、各表(い)欄の熱伝導率λと特定できた厚さの数値を、
断熱材の厚さが特定できない場合は、各表(い)欄の熱伝導率λと各表(ろ)欄の厚さの数値を、それぞれ計算に用いるものとする。

表① 断熱材種類まで判別できる場合

断熱材の分類	断熱材種類	(い)	(ろ)
		熱伝導率λ (W/(m・K))	厚さd
発泡プラスチック系	ビーズ法ポリスチレンフォーム保温板	0.043	10 [≒] mm
	押出法ポリスチレンフォーム保温板	0.040	20 [≒] mm
	フェノールフォーム保温板	0.036	15 [≒] mm
	A種ポリエチレンフォーム保温板	0.042	25 [≒] mm
	硬質ウレタンフォーム保温板 (ボード品)	0.024	7 [≒] mm
	吹付け硬質ウレタンフォーム (現場発泡品)	0.040	10 [≒] mm
繊維系	グラスウール	0.050	50 [≒] mm
	ロックウール	0.038	50 [≒] mm
吹込み用繊維系	吹込み用グラスウール	0.052	100 [≒] mm
	吹込み用ロックウール	0.047	100 [≒] mm
	吹込み用セルローズファイバー	0.040	100 [≒] mm

表② 断熱材の分類しか判別できない場合

断熱材の分類	(い)	(ろ)
	熱伝導率λ (W/(m・K))	厚さd
発泡プラスチック系	0.043	10 [≒] mm
繊維系	0.050	50 [≒] mm
吹込み用繊維系	0.052	100 [≒] mm